

昆虫分類学若手懇談会ニュース

No. 97 (17. viii, 2021)

目次

事務局体制.....	1
会計報告.....	1
2020 年度総会の決議内容.....	2
2021 年度総会について.....	3
2021 年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご案内.....	3
会員自己紹介.....	5
会員異動.....	6
お知らせ.....	6

事務局体制

2020 年度も九州大学昆虫学教室が事務局を引き継ぎます。新しい事務局体制は以下の通りです。

幹事：井上翔太（いのうえ しょうた）

会計担当：外村俊輔（とむら しゅんすけ）

ホームページ担当：野崎翼（のざき つばさ）・今田舜介（いまだ しゅんすけ）

編集担当：久末 遊（ひさすえ ゆう）・相馬 純（そうま じゅん）・大山 望（おおやま のぞむ）・奥 尉平（おく じょうへい）・辻 尚道（つじ なおみち）

会計報告

2020 年決算（2020 年 4 月 1 日－3 月 31 日）	（円）		
	収入	支出	次年度繰越金
前年度繰越金	581,357		
会費収入（2019 年以前分）	2,000		
ニュース発送経費		28,056	
OCGE 開催経費		28,820	
OCGE 2 開催経費		22,880	
会費払戻し		1,000	
計	583,357	80,756	502,601

2020 年度総会の決議内容

3月13日に Zoom を用いて開催されました本会総会の内容をお知らせいたします。

①本会会誌の連絡手段の電子メールへの移行

これまで本会では、電子メールでの連絡について、緊急の連絡をする場合にのみ制限して会員の皆さまからメールアドレスの情報を収集させていただいていました。しかし 2020 年度総会にて、新規会誌の発行は PDF を主体とし、電子メールによる配布に移行することに決定いたしました。

[実施方法]：現状メールアドレスを本会で把握している会員の皆様には、紙媒体での会誌の発行を取りやめ、電子メールにて会誌の PDF を送付します。メールアドレスのご通知がないか、ご通知いただいたメールアドレスに電子メールが届かない会員の方については、ご登録住所へ紙媒体の会誌を引き続き送付します。なお、後者の場合でも、メールアドレスをご通知いただいた場合には、その会員の方には電子メールにて会誌の PDF を送付します。

②本会会誌の電子化について

下記の 2 点について決定いたしました

・バックナンバーPDF の公開

会誌のバックナンバーについて、現状は会員の方のみに公開する予定です。本会事務局の Google Drive のサービスクラウド上にてバックナンバーの PDF を保存・管理し、会員の皆様にその閲覧用のリンクアドレスをご連絡することで、会員限定でアクセスできるようにします。このシステムよりも良い公開方法が見つかった場合には、そちらに移行し、同様にリンクアドレスを周知します。

・今後発行される会誌

会誌の PDF 化に伴い、最新 5 年分を本会 HP 内にて公開します。国際標準逐次刊行物番号 ISSN を新たに取得する予定でしたが、しばらくは紙媒体での出版を続けますので、当面の間見送ることにいたしました。

会誌の電子化について、J-STAGE を用いて誰でも Web 上でアクセスできるようにすべきであるという意見をいただきました。現状、会員のみが会誌を閲覧できるシステムをそのまま引き継いだ形をとっていますが、今後は若手懇ニュース・Panmixia すべてを Web 公開するような審議を行うべきだと考えています。そのような会誌の一般公開に向けて、PDF の分割や個人情報の伏せ字をする作業を既に事務局で進めています。

③その他の会の運営についての問題点の指摘

その他の意見として、本会の事務局が 2015 年より九州大学から移転していないことが指摘されました。本会の強みのひとつは、普段はじっくりと話し合う機会があまりない異なる研究グループ（他大学・研究機関など）に属する学生同士が集まり、活発な情報交換や議論を

行うことにあります。これにより、各々の研究グループが持っている問題意識や、協力して進めることのできる研究テーマなどを共有できるという大きな利点があります。しかしながら、ここ数年は新入会員が九州大学の事務局周辺の学生に限られてしまっている状態により、やむなく九州大学内で事務局が引継がれ、そのような大学間の情報交換の機能が無くなってしまっていました。

現状の打開のためには、学生会員の新規勧誘を早急に行い、シンポジウムやその他の活動案・要望を会員外の他大学の学生からも募ることで、日本の若手の分類学者が良い情報を得て、交換できるような場作りを改めて進めていく必要があります。

2021 年度総会について

今年度も、昨年に引き続き総会・会計決算の承認事項に関しては3月にオンラインで開催するように準備しております。開催の詳細や審議内容につきましては事務局で決定次第本会ホームページ (<https://wakatekon.jimdofree.com/>) およびメールにて通知いたします。

2021 年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご案内

「研究を続けられるかどうか」、「アカデミアに就職できるのか」。このような不安を抱えている若手の分類学者は少なくありません。そのため、分類学のような基礎研究に従事する若手の分類学者にとって、「研究を続けるための戦略・選択肢」を知ることは今後のキャリアプランニングに役立つと考えられます。そこで本会では、①成果公表の戦略、②分類学と他分野の関わり、③職業研究者以外の道で分類学者として生きる、の3つのサブテーマを設定し日本昆虫学会第81回大会の小集会において「若手分類学者の生き残りシンポジウム」を開催いたします。以下の方々にご講演いただく予定です（敬称略）。

- ・大島一正（京都府立大学）「自分が本当に興味のあることに挑戦する」
- ・清水 壮（神戸大学）「記載論文の効率的な執筆と投稿戦略」
- ・寺田 剛（岡山県環境保全事業団）「趣味の分類～職業研究者以外の道で分類学もしながら生き残り～」

参加される方、特に若手の分類学者が、今後分類学者として戦っていくために貴重なお話を伺えると思います。

【開催日程】

日本昆虫学会第81回大会（2021年9月4～6日オンライン開催）

小集会タイトル 『昆虫分類学若手懇談会シンポジウム「若手昆虫分類学者の生き残りシンポジウム」』

日時：9月4日 17:00～19:00

開催方法：Zoom ミーティング

【注意点】

小集会のみの参加が可能です。大会非参加者の方で、小集会に参加を希望する方は本会メールアドレスまでご連絡ください（メールアドレスは末尾のページに掲載）。

※本会の小集会以外の講演を視聴するためには日本昆虫学会第 81 回大会へのお申し込みが必要になります。現在もクレジットカード決済のみで当日参加として参加登録が可能です。

【講演要旨】

自分が本当に興味のあることに挑戦する

大島一正（京都府立大学・大学院生命環境科学研究科，新自然史科学創生センター）

分類学を出発点に，系統学，生態学，行動学，集団遺伝学，昆虫・植物間相互作用など，進化多様性生物学に関する研究に興味の向くままにやっているのですが，その原点は 15-16 歳頃のある日に遡ります。その日は，家の近くでアオスジアゲハとナミアゲハが飛んでいるのを見かけました。そして急に，アオスジアゲハもナミアゲハも同じアゲハチョウ科なわけで，元々は同じ祖先種だっただろうに，どうして片方はミカン科を，そしてもう一方はクスノキ科を食べるようになったのだろう，という疑問が浮かんできました。さらに，（今現在は）同じ地域に生息しているのに，そもそもどうやって別々の種へと分かれたのだろうか，といった疑問が次々と湧いてきたのを鮮明に思えています。それ以来，種分化というのが自身の学術的な興味を中心ではあるのですが，上記の疑問にはまだ答えられそうにありません。そんなわけで，種分化を主軸に今後も研究を続けていきたいと思っているのですが，今回の発表では，研究面での材料や手法に縛られすぎることなく，自身の興味のあることに正直に挑戦していると，自然と様々な分野と関わることになり楽しいですよ，という話ができればと思います。

記載論文の効率的な執筆と投稿戦略

清水 壮（神大院・農学）

生物の種多様性の解明や様々な研究の対象ユニットを定義・記載する分類学は最も重要な基礎研究分野のひとつである。昨今のコンピュータソフトや光学機器の発達により論文執筆が効率化されてきている。また，格安航空券や電子通信技術の発達などにより国外に収蔵されている標本へのアクセスも容易になった。こうした現代技術の発達により分類学の敷居は下がり，多くのプロ・アマチュアの研究者が気軽に新種の記載を行えるようになりつつある。しかし，多くの分類群で分類学を行う研究者の処理能力を遥かに超える数の未記載種の存在などの分類学的問題点が未だに残されている。したがって，記載スピードのアップは今後も絶えず求められる課題のひとつである。また，我々若手分類学者を取り巻くアカデミアにお

ける就職事情は依然厳しい。よって、アカデミアで生き残るためにも、記載論文の生産の効率化や投稿先雑誌の選定などの投稿戦略は重要な要素の一つである。

本講演においては、「どのようにしたら効率的に記載論文を執筆できるか？」や「アカデミアで生き残るためにはどのような投稿戦略をとればいいのか？」に関して、演者の経験を交えながら紹介・意見交換する。

趣味の分類 ～職業研究者以外の道で分類学もしながら生き残る～

寺田 剛（公益財団法人岡山県環境保全事業団）

昆虫の分類をしようと思えば、研究機関等に所属し、職業研究者として専念するのが一つの目指すべき道かもしれない。しかし、決して多くはない昆虫分類専攻の学生の人数に対し、同分野の職業研究者の枠は輪をかけて少なく、その門戸は極めて狭い。一方で、こと形態分類に関しては、幸いなことに個人レベルで研究を進めることが可能な場合があると考えている。演者は小蛾類（ニセマイコガ科）の分類で学位を修めたが、その後は生物調査関係の仕事を複数経験し、また現在も職業研究者の位置になく、環境アセスメント系の職に就いている。その中で、小蛾類の展示会を開催したり、仕事で得られたサンプルを自身の研究に使わせてもらったりと、時には分類を仕事に役立て、またある時には仕事を分類に活用してきた。そうして得られた機会も利用しつつ、自宅にできる限りの環境を整えて、わずかな時間を見つけては長期プランで細々と論文執筆を続けている。

本公演では、職業研究者以外の道で分類を継続している人間の一事例として、学生時専門としていた分類を現在も趣味として進めたり、進められなかったりしている演者の経験を紹介する。

会員自己紹介

454 井上翔太（いのうえ しょうた：九州大・生資環・昆虫・D2）

今年度より、本会の幹事を務めさせていただきます井上翔太と申します。私は九州大学昆虫学教室に所属し、ハネカクシ科アリヅカムシ亜科 *Pselaphitae* 上族の分類や系統に取り組んでおります。アリヅカムシ亜科は口器の一部である小顎肢に著しい形態的多様性を示し、これは他の昆虫類と比較しても異質といえます。私は、小顎肢形態がアリヅカムシにおいて多様化した要因を明らかにしたいと考え研究を行っています。ハネカクシ科において口器が特殊化したケースは多く知られますが、それは捕食行動に関連していることが多いです。アリヅカムシ亜科も一部の分類群において、摂食行動に適応した口器（小顎肢）の変化が示唆されており、私はアリヅカムシ亜科の示す小顎肢の形態的多様性は、摂食行動の多様性に伴って引き起こされたのではないかと考えています。博士課程では特に小顎肢形態が多様である

Pselaphitae 上族を対象に分類・系統・摂食行動観察の 3 点を軸として研究に取り組んでおります。

会の運営のことで皆様にご迷惑・ご不安をおかけすることがあると思いますが、その都度勉強させていただきたいと思っておりますので、今後とも本会をどうぞよろしくお願いいたします。

研究成果は、以下のリンク・QRコードからご覧いただけます。

<https://www.researchgate.net/profile/Shota-Inoue-5>



会員異動

<退会>

- 37 友国雅章
- 55 渡辺信敬
- 191 嶽本弘之
- 326 谷垣岳人
- 331 岡部貴美子

会員数： 252 名

お知らせ

ご住所・ご所属やメールアドレスの変更をされた方は、事務局メールアドレス wakatekon@yahoo.co.jp までお伝えいただきますよう、よろしくお願いいたします。また、会員の方で本誌が届いていない方をご存じでしたら、本会までご連絡のほどよろしくお願いいたします。

昆虫分類学若手懇談会ニュース No. 97

発行日：2021年8月17日

編集・発行：九州大学農学部昆虫学教室

昆虫分類学若手懇談会事務局

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 ウエスト 5 号館 523 号

電話: 092-802-4573

事務局 E-mail: wakatekon@yahoo.co.jp

年会費：無料